

# 病理診断学

## I 一般学習目標

3年次において学習した病理学総論および各論の知識を元に、臨床における病理診断学を学ぶ。すなわち、まず、ヒト疾患の分類、病因・病態、病理所見（肉眼所見および組織細胞所見）、疫学を含めた臨床所見を理解した上で、病理診断の実際を学ぶと共に、病理学が疾患の病態の理解や臨床的治療戦略にどのような関わるかを理解する。

## II 個別学習目標

### A) 病理学総論的事項

1. 病理学とはどのような学問であるかについて述べるができる。
2. 形態学的な変化を表現する病理学総論的用語を定義に従って用いることができる。
3. 疾患の場としての人体各臓器や組織の正常基本構造と機能を説明できる。
4. 病理総論的疾患分類である①形態異常性疾患、②退行性疾患、③循環障害性疾患、④炎症性疾患、⑤非腫瘍性増殖性疾患、⑥腫瘍性疾患を説明できる。
5. 6つの病理総論的疾患分類をさらに先天性／後天性、あるいは機能状態に分けて亜分類できる。
6. 病理総論的疾患分類の各々について、病因・病態について病理総論的に述べるができる。
7. 病理総論的疾患分類の各々について、肉眼的および細胞・組織学的病理所見を述べるができる。
8. 病理学における研究手法について列挙し、説明できる。

### B) 病理学各論的事項

1. 各臓器の疾患を病理総論的疾患分類法に基づいて分類できる。
2. 各疾患の病因・病態を述べるができる。
3. 顕微鏡やバーチャルスライドを使用して、組織標本の観察ができる。
4. 各疾患の肉眼的および組織学的病理所見や特徴を述べるができる。

### C) 病理診断学的事項

1. 病理学における病理診断学の位置づけと役割について述べるができる。
2. 臨床における病理診断学の位置づけについて述べるができる。
3. 病理医と臨床医の役割分担や協調について述べるができる。
4. 細胞診断について、意義および組織診断との違いについて説明できる。
5. 病理検体の固定法の種類とその原理、実際の使用法について説明できる。
6. 術中迅速診断の意義と適応について説明できる。
7. 疾患の診断に至る病理診断の過程を組み立てることができる。
8. 疾患を肉眼的および顕微鏡的に観察し、病的所見を指摘できる。
9. 病理診断学における特殊染色、免疫組織染色、分子病理学的解析、電子顕微鏡的解析について、その種類と適応について説明できる。
10. 各疾患の疫学を含めた臨床所見の特徴を病理所見と関連付けて述べるができる。
11. 各疾患の治療戦略立案における病理診断の役割について述べるができる。
12. 病理解剖の意義を説明できる。
13. 病理解剖カンファレンスに参加し、臨床病理相関を解析できる。

### III 教育内容

1. 臨床における病理診断の役割が大きい疾患についての講義.
2. 病理解剖症例を用いたClinico-Pathological Conference (CPC).
3. 代表的疾患について、バーチャルスライドを用いた実習.

### IV 学習および教育方法

学習： 病理診断学は範囲が広く講義だけでは教育が困難なため、下記推薦図書を参考に、自習してもらおう。

尚、**第1回の講義においてプレテストを実施する予定である**が、下記の教科書「標準病理学」に記載されているレベルと同等の病理学的知識を有していることを前提に問題を作成する。

講義： 上述のように、第1回の講義においてプレテストを実施する。

病理診断演習における講義はスライドやプリントなどを併用して行い、実際の症例のデータを示しながら参加型講義を行う。必要に応じてレポートや小テストを課す。

実習： 病理診断実習では、各学生が、バーチャルスライドを用いて、疾患の組織所見の観察やスケッチを行う。実習後、必要に応じてレポートやスケッチの提出、小テストを課す。

### V 評価の方法

試験は、原則として講義および実習の範囲と内容から出題する。

#### 1) 定期試験

原則として選択問題および実習問題の形式で行う。場合によっては記述問題の形式で行う。

#### 2) 追試験

定期試験の成績不良者については、追試験を1回のみ行う。

最終判定は、講義及び実習への出席、レポート/スケッチ、小テスト (プレテストも含む)、試験の点数等により総合的に行う。

正答な理由なく講義の出席が70%以下の者、および実習を1回でも欠席した者は、不合格とする。

### VI 推薦する参考書

- |                             |                                     |                         |
|-----------------------------|-------------------------------------|-------------------------|
| ○ 北川昌伸・仁木利郎 編集              | 標準病理学                               | 医学書院                    |
| ○ 笹野公伸 他 編                  | Newエッセンシャル病理学                       | 医歯薬出版                   |
| ○ 清水道生 編                    | 集中講義病理学                             | メジカルビュー                 |
| ○ Klatt EC著 鷹橋浩幸 監訳         | ロビンス&コトラン病理学アトラス                    | エルゼビア・ジャパン              |
| ○ 飯島宗一監修                    | 組織病理アトラス                            | 文光堂                     |
| ○ 相沢・菊地, 菊地・吉木編             | 新病理学総論、各論                           | 南山堂                     |
| ○ 北村幸彦 編                    | 新病理学入門                              | 南山堂                     |
| ○ Cotran, Kumar and Collins | Robbins Pathologic Basis of Disease | W. B. Saunders Company  |
| ○ Rubin and Farber          | Pathology                           | J.B. Lippincott Company |